

第3回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議 会議概要（無記名版）

日時：平成30年9月21日（金） 14時00分～16時00分
場所：伊予市役所 4階会議室
出席者：アドバイザー委員6名 事務局5名
資料：資料① 第3回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議議事次第
資料② 伊予市文化交流センター事業フレーム（案）伊予市図書館、文化ホール等管理運営実施計画に伴うアクションプラン（2019年～2021年）
資料③ 事業フレーム（総表）
資料④ 事業評価について
資料⑤ 伊予市文化交流センター 利用案内（案） 発行 平成30年 月 日（第1版）
資料⑥ 第2回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議概要（無記名版）

1. 開会

- ・ 委員長挨拶（委員長）

2. 議事

（1）現在の取組みについて（報告）

○愛称募集

- ・ 8月30日の委員会にて、396作品の中から候補5作品を選んだ。それをもって、市内、全小中学校の生徒による投票を行った。現在は、開票、集計中で、10月1日に伊予市のホームページに掲載して公表する。（事務局）

○工事現場見学会

- ・ 開催日時は11月4日、日曜日、10時、13時、15時の3回に分けて実施する。先着20人で、計60人が参加可能である。市内に在住、通勤、通学している、小学5年生以上の方を対象とする。小中学生に関しては、保護者同伴とする。募集期間は10月9日から26日である。所要時間は1時間～1時間半くらいである。（事務局）

→ 関係者が参加したい場合は別枠が取れるのではないかと思います。（事務局）

○イベント企画講座

- ・ 事務局よりイベント企画講座の日程に関する説明。（事務局）

→ 参加者は20名程度である。メンバーの構成としては、市民実行委員会、文化協会から多く、図書館の来館者なども参加していただいている。（事務局）

→ 内容としては新しい施設において、自分たちが事業を実施するためにはどのように企画して、実施までに行動すればよいかを学ぶということである。2回目はグループ毎に、図書館、文化ホール、地域交流館の各機能においてどういった事業スケジュールで企画を実施すればよいかというワークショップを、3回目では参加者が個々にやりたい企画書を持ち寄り、ブラッシュアップしていくという内容になっており、講師に講義をしてもらいながら進める予定である。（事務局）

→ 今後こういった講座については、定期的に継続していくことも必要かと考える。（事務局）

→ 市民の皆さんはとても熱心に取り組んでいる。本講座では、市の自主事業で何をして欲しいかということではなく、貸館事業として、自分達の力で事業を実施した場合を想定して講義を行っている。すでにイベントをご自身で実施されている方もいてご経験であろう方が何人かいるが、収支や

トラブル対応等のイベントを実施するにあたって避けては通れないシビアな問題にも触れていきたいと思っている。(委員長)

(2) 管理運営実施計画に基づいた事業フレームについて 資料②

・ 配布資料②に基づき、伊予市文化交流センター事業フレームの説明。(事務局)

○アーカイブ事業について

- ・ 文化資源の保存方法に関して、やはり紙だけの保管では心配である。デジタル化といってもお金が必要で、長期的に考えて一番長くもつメディアを考えていただきたい。(郡司島委員)
 - それにはお金がかかる。(徳永委員長)
 - 補助金なども含め、工夫をして財源確保をしたいと考えている。試算も行っているが、約50万円でDVDで200本程度保存できるのではないかと。現在VHS資料などもあり、更新が必要。過去に保存してきた資料を失わないよう残して行きたい。(事務局)
 - 図書館だとそれがレファレンスされて貸し出しやすいだとか、利用者が閲覧しやすい仕組みが必要。まず、第一弾はVHSスタイルが棄損しないうちにデジタルにすると、次の段階はこれからの資源もアーカイブしていくことが重要である。(徳永委員長)
 - DVDも永久ではないと考えるため、今後の更新も見据え、媒体を考えていったらどうか。(東委員)
 - 著作権の問題もある。せっかくよい動画があるのに広報で使いづらい。著作権の問題をクリアできれば動画をホームページに公開するなどして沢山の人の見てもらうこともできるので、この点についても課題である。ご懸念されている通り、DVDもどれだけ持つかわからない。VHSは15年経過しているので、早め早めに移行していきたい。(事務局)
 - アーカイブ方法については、常に難しい問題がある。結局紙が一番長く持つが、紙のみというわけにはいかなくなってきている。(徳永委員長)
 - ・ 各方針の仕様別で事業計画をさせていただいた。(事務局)
 - 個々の事業ごとに中身をさらに詰めていかないといけない。(徳永委員長)
 - 一つひとつの事業についてはまた掘り下げて検討、計画をしていかないといけない。ボランティアの方も各企画に参加して頂きたいに考えているが、例えば、引っ越しイベントに関して、何もかもお願いするのではいけない。責任の所在を明らかにした上で更に踏み込んだ計画を練っていく。(事務局)
 - ・ 情報収集のお願いなのだが、市内中学校が統合する前の廃校となった学校の校歌が残っていないのかということ。図書館にも聞いたが結局なくて、そういった資料も今後100年先ずっと、未来永劫残していくべき財産だと考える。昔は学校が地域の情報の一番集まる場所でもあったので、学校には残っていてよく覚えているというか。そういうものもいくつかアーカイブの中にも入れていただきたい。(松浦委員)
- 施設のネット環境について
- ・ 新施設となり、インターネット利用環境も充実すると思うが、活用方法についてはいかがお考えか。(郡司島委員)
 - Wi-Fi環境を整え、持ち込みの機器にも対応できるようにするが、ルール作りが肝だと考えている。(事務局)
 - ワークショップの時に実は意見として、iPadを5台、10台揃えてく、みたいなことも意見としてあったが、やはり、ご自身の持ち込み機器を使うことが多いであろう。(事務局)
 - 図書館などにある備え付けの端末は、思ったよりはるかに使われていない現状にある。パソコン持ち込み可能で、Wi-Fiが整備されている、キーボードの音なども割と慣れてきてしまっているところもある。(徳永委員長)

○完成後の施設見学会について

- ・ 例えば、各学校の代表生徒を招待して、新聞づくりの講座とか、ビデオを撮ったりする講座を見学会と併せて実施し、その場で開いて施設の取材や、映像を残して学校に帰って紹介してもらおう企画はどうかと思っている。(事務局)

○施設の組織体制について

- ・ 人の問題がある。アーカイブ事業に関してもデジタル化となれば、委託という形を取っていきたいと思っている。(事務局)
- 本施設の人員体制の充実は兼ねてより、本会議からも要請していることである。あとは、施設と市民との関わり、連携の方法を具体化していかなくてはいけない。(徳永委員長)
- ・ 企画運営会議のメンバーに市民は配置する想定か。(郡司島委員)
- 企画運営会議はまだ実施されていない。メンバーについても検討する。(事務局)

○その他

- ・ 本施設には、ホール、図書館、地域交流と3つ機能があるので、使い方のモデルとなる連携した自主事業も必要と思う。(郡司島委員)

(3) 事業評価について **資料④**

- ・ *資料④に基づいて事業評価について説明。*
- ・ 事業評価をやらねば助成金も取れない。学校の場合はいかがか。(徳永委員長)
- 教育委員会の評価項目に基づき、まずは、校長を筆頭に教職員による自己評価を行う。それから、保護者などの学校の関係者による評価をアンケートなどで行ったりする。我々、学校の現場では定量評価が大半、定性に重きを置くと、評価する人の主観に寄ってしまう部分があり、その点が懸念である。(松尾委員)
- 一方で、公立文化施設の評価方法として、定量評価だけではならず、定性評価も重視されている。手法としては、利用者に団体ヒアリングをするなど、内部の評価だけではなく、外からの声も必要。(徳永委員長)
- 劇場・ホールの評価を得意とするコンサルタントもいて、評価自体を外注に出すということも考えられるが費用がかかる。第三者のアンケート、ヒアリングなどボリュームが多く、ヒアリングともなると現地滞在するしかなく、宿泊費などがかかる。意外と内部評価したものと第三者の評価にギャップがあるケースもあるため、専門家に外注するのも一つの策である。もう一つは、事業化すること。市民の人たちを巻き込んだ車座などを開き、議論する場を設け、施設を評価していただくようなことも考えられる。(徳永委員長)
- 事前の評価項目には、これまでの上位計画で定義したようなビジョンがしっかりと反映されていなければならない。稼働率がいくらだった、来場者数がいくらだったということばかりではなく、そのような視点がむしろ必要だと考える。(郡司島委員)

(4) 広報宣伝(利用案内等)について

- ・ *利用案内概要説明* **資料⑤**
- 共有スペースや伊予カフェの使い方については、別途マニュアルが必要ではないか。また、目次もあつたらよい。(徳永委員長)
- まずは、案としてご覧頂きたい。イベント企画講座の際にある程度の使用ルールを知っていただく必要があると考えたため、作成を急いだ。これとは別に備品や附帯設備の使用料一覧も入る予定である。ページ数が非常に多いため、図書館、地域交流館、ホールと、機能ごとでわけるか、それぞれ簡易版パンフレットのようなものも必要だと考える。(事務局)

→ 備品料金については、セット料金の検討を行って頂きたい。(郡司島委員)

3. 閉会

- ・ 時間となったため、閉会とする。(委員長)

以上